

平成28年度 第1回若草南小学校自己評価書

平成28年9月8日(木)作成

学校長：市川 利仁

記述者氏名：教頭 加賀美 敏

学校教育目標

「進んで学び、心豊かなたくましい子ども」

〔具体目標〕

- (1) 自ら学び、よく考える子ども (知)
- (2) 豊かな心で、思いやりのある子ども (徳)
- (3) 体をきたえ、最後までやりぬく子ども (体)

〔本年度指導重点〕

- 1 知・徳・体の調和を重視し、「生きる力」を育む適切な教育課程の編成と実施に努める。
 - (1) 基礎的・基本的な事項(知識・技能)の確実な定着を図る。
 - (2) 学習意欲や興味関心をもてるような、たのしく・分かる授業を創意工夫して実施する。
 - (3) 授業時数の確保に努めると同時に補充学習や発展学習等の指導も意図的に行う。
「確かな学力」の育成を図る。
- 2 心の教育の充実を図る。
 - (1) 児童理解を常に心がけ、児童との信頼関係の構築に努める。
 - (2) 道徳の時間の確保に努め道徳教育の充実を図る。
 - (3) 望ましい学級・学年集団づくりの積極的な推進。異年齢集団活動を推進し異学年同士の交流を深める。
- 3 健康で安全な生活を推進する。
 - (1) 教育活動全体を通じて体力・健康・安全・食に関する理解を深め、日常生活に生かすとともに、生涯を通じて体育・スポーツに親しみ、健やかで心身の調和のとれた児童の育成に努める。
 - (2) 早寝・早起き・朝ごはんなど基本的生活習慣の定着を図る。
 - (3) 何事に対しても最後までやりぬく強い意志を持った心身ともに健康な児童の育成を目指す。
- 4 特別支援教育の充実を図る。
 - (1) 特別支援教育校内委員会を開催し、対象児童の支援の在り方等共通理解をし、指導を進める。
 - (2) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成しその活用を図り、一層の指導の充実に努める。
 - (3) 交流学級や在籍学級の担任、保護者、関係諸機関との連携を図り指導の充実に努める。
- 5 安全確保体制の確立と安全指導の充実を推進する。
 - (1) 学校安全管理体制の整備・登下校の安全確保・安全教育の充実を図る。
- 6 開かれた学校づくりを推進する。
 - (1) 家庭・地域との連携において具体的な取組を進める。

I 第1回児童アンケートの考察

1 全体的な傾向

全20の質問項目中、肯定的評価が90%以上のものが16項目あり、残りの4項目も70%以上である。全体的に肯定的評価が多い。昨年度と比較しても、肯定的評価が増えている。

2 昨年度と比較して良くなっている項目

[項目3]「わたしは、最近友達にいやがることを言ったり、いやがることをしたことがあります。」(−2)

[項目4]「わたしは、最近友達からいやがることを言われたり、いやがることをされたりしたことがあります。」(−3)

[項目5]「わたしは、先生や友だちに、あいさつをしています。」(+4)

普段の学校生活の中でも自分から進んであいさつをする児童が多いと感じる。これは児童会のあいさつ運動の取組や道徳の推進校としての実践など、今までの本校の取組の成果だと考えられる。特に6年生をはじめとする高学年生が見本となって進んであいさつをしていることが良い習慣を広げることにつながっていると思う。また、学校外の地域でもあいさつをする子は90%近くいるが、このあいさつの輪を広げていくことが地域のつながりを強めていくことにもつながると思うので、地域での支援もお願いしたい。

友達に嫌なことをしたり、されたりする児童が減っている。これは児童が安心して学校生活を送っている成果だと思われる。本校はQ-Uや学級力アンケートを実施し、学級の状況や児童一人ひとりの様子を把握し、学級経営や児童指導に役立てている。また結果を基に担任をはじめとする教師集団が、きめ細やかな指導を行っていることが、友達関係が良くなっている原因だと思われる。ただ、学校生活に不適應を示す児童もいるので、一人ひとりを大切に丁寧な指導を今後も心がけていきたい。

3 課題として考えられる項目

[項目8]「わたしには、困った時に、相談にのってくれる友達があります。」(−3)

[項目10]「わたしは、自分で考えたことを、進んで発表しています。」(−3)

[項目15]「わたしは、本をよく読みます。」(−3)

◆以上の課題についての各学年での取組とまとめ。

[項目8] について

1年:子ども同士の関わりを持つような活動を仕組む。エンカウンター (注1) や学級力アップ作戦などをする。

2年:クラスの中で気持ちを言い合える雰囲気を作るために構成的エンカウンター (注2) などを行う。

3年:学活や道徳等の時間で友達を理解し合えるような活動を行う。偏った子だけでなくいろいろな子に関われるようにする。

4年:仲間づくりのエンカウンターを行い、仲間との関わりを増やす。思いやり、親切、友情などの内容項目での道徳授業を大切に行う。話し合い活動を大切にする。

5年: 日常の生活の中で何でも話せる学級づくりを推進する。

6年: 運動会などの行事の取組を通して友達作りや心が許しあえる仲間づくりを支援していく。友人関係が固定化しないようにグループ作りを工夫したり、レクやエンカウンターなどを行ったりして居心地の良い学級づくりをする。

※注1 エンカウンターとは 本音を表現し合い、それを互いに認め合う体験のこと

※注2 構成的エンカウンターとはリーダーの指示した課題をグループで行い、その時の気持ちを率直に語り合うことを通して、エンカウンター体験を深めていくこと。

【まとめ】

どの学年からも出ているが、一人ひとりの児童を大切に学級・学年づくりを進めていくことが大切である。具体的には、Q-Uなどの調査の結果をしっかりと分析・考察する。そして、その結果からその学級にあった取組（エンカウンターなど）を行い、担任だけではなく、多くの教職員が関わって、より良い集団づくりを進めていくことがポイントになる。

児童会で行っているたてわり活動も、異年齢集団の交流を深めるのに役立っているもので、そういった活動は継続して取り組み、豊かな人間関係が築けるようにしたい。

児童の中には「困ったことがない」ので、『いない』と回答したものがある。2回目のアンケートでは『今困っていることがなくても』との条件を付加したり、例えば『授業中にわからない問題がある時に友達に聞くのもいいんですよ』などの補足を担任の方からしてもらいようにしたりして回答の精度を高めていく。

【項目10】について

1年: ペア学習やグループ学習などを取り入れ自信を持って全体の場でも発言できるようにする。間違っても大丈夫という学級の雰囲気づくり等の学級力アップ作戦をしていく。

2年: 自分の意見を自由に言えたり、言ったことを受け入れてもらえるようなクラスづくりをする。自信を持って言えるようにペアやグループで話し合ってから発表するなどのスモールステップを考える。言いなれていない子どもでも自信を持って言えるような発問を考える。

3年: ペア学習の時間を確保して自信を持って発表できるようにする。簡単な問題を出すことで全員が手を挙げられる時間を確保する。発表できた子を褒め、認める。

4年: アクティブ・ラーニングを導入した授業改善を行う。グループ活動を通して、気軽に自分の意見を発言できる環境・関係作りを行う。誰もが発言できるような課題を用意する。自分の考えをまず持つことを大切にしている。何でも言い合える安心した教室環境づくりと共に思ったことを伝えあつていこうとする授業づくりを子どもたちと共有する。

5年: 自分の考えに自信が持てるように、学校や学年、学級の単位だけではなく日常のグループ活動を多く持ち、その中で発表する場面を作っていく。小集団における発表も発表として認めていく。

6年: 小グループ活動を取り入れ、話をする場面を設定する。

【まとめ】

今年度の校内研究のテーマにも関わる大事な点である。自分の意見を出せるようにするためには、[項目8]のまとめでも述べたように、安心安全な学級づくりが基本となる。また、授業の題材や課題を工夫して、児童の学習意欲を引き出すことも大切になる。児童が主体的に学ぶには、単元を通して授業計画を作っていくことも大切である。児童が前時の

課題から学んだことを基にして、新しい課題に取り組んでいけるようにしたい。

今年度と来年度は市の研究指定校になっているので、校内研究で取り組んだことを授業づくり・学級づくりに活かしていく。また、拡大校内研で寄せられる多くの意見を参考にし、研究を深めていきたい。

〔項目 15〕 について

1年：2学期はもっと読み聞かせをして、読書への関心意欲を高める。

2年：友達同士で本の紹介をしあう。読み聞かせをし、本に興味を持たせる。たくさん読んだ子を褒めたり、呼びかけをしたりする。

3年：国語の授業等で本の紹介を行う。朝読書の時間や図書館利用の時間を確保する。借りた本を持ち帰らせじっくり読めるようにする。

4年：教科に関連した本の紹介や読み聞かせを積極的に行う。国語の授業での並行読書(注3)を行う。週1回の図書の貸し出しを継続する。楽しい本を紹介する。図書室を利用するように呼びかける。

5年：週末の宿題に図書の本読みと感想の宿題を出すなど意識を高めていく。

6年：意識的に図書室を利用したり、読書への呼びかけを行ったりする。音読の宿題を継続する。

※注3 並行 読書とは、単元のねらいに即して、例えば「同じ作者の作品を読む」同じ題材（例えばねらいが「命」ならそれにかかわるもの）の作品を読んだりすることで思考を深めるために行う読書のこと。

〔まとめ〕

読書は心の栄養である。これからの『知識基盤社会』を生きていく今の子どもたちにとっては、学童期から本に親しむ習慣を作ることがとても大切である。山梨県は全国的に見ても、図書館司書の配置など学校図書館の充実はトップクラスであるので、恵まれた環境をどのように活かしていくかなど児童の発達段階等を考えて計画的に読書に取り組んでいきたい。

Ⅱ 第1回教職員自己評価の考察

1 全体的な傾向

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力していることがわかる。

2 プラス評価が多かった項目（A評価が20以上のもの）

Ⅱ 学校経営・組織について

③教育公務員としての自覚を持ち、職務に従事している。（A23・B5）

Ⅲ 学習指導・児童指導について

④児童の規範意識をはぐくむための指導を行っている。（A21・B6）

⑤問題行動（いじめ・不登校等）の早期発見に心がけ、早期対応を行っている。（A21・B6）

V 保護者・地域との連携

②学校・学年・学級だよりなどにより、適時必要な情報提供を行っている。（A20・B8）

[考察]

全体的傾向でも述べたが、全員が教育公務員という自覚を持ち職務に従事していることがわかる。

児童の規範意識を育てることやいじめを出さないことに対しては、どの教職員も力を入れていることがわかる。そのことが児童の安心感につながっていることが児童アンケートからもわかる。

学校・学年・学級ごとに工夫した便りを出して学校の様子を家庭に伝えている。気になる子どものことについては、電話連絡や家庭訪問をして小まめに家庭との連携を取って、より良い児童育成を心がけている。

3 課題として考えられる項目（C評価が2だったもの）

Ⅲ 学習指導・児童指導について

②個に配慮した授業を行っている。

[課題・意見]

- ◆フリーの先生方には学担だけではカバーしきれないポイントを助けていただき感謝している。授業に集中できる。
- ◆個に配慮しなければならない児童が多く、適切な指導が行えていない部分がある。2学期は意識していきたい。
- ◆理解に時間を必要とする児童には空き時間を使い学習しているが、一斉授業の中でも理解を深められるように工夫したい。
- ◆校内研で学んだことを活用し、日々の授業の中に活かすことが大事だと思う。

Ⅴ 保護者・地域との連携

- ①学校開放日・部会などは、学校との連携を深めるために、有効に活用されている。
- ③保護者は、学校行事・学習指導や生活指導に協力的である

[課題・意見]

- ◆父母が仕事や家のことが忙しく、中々参観にも来られない家庭もある。
- ◆我が子の様子には関心を持ち協力してくれる思いは感じられる。
- ◆家庭学習見守り週間で子どもたちの意欲が高まった。
- ◆協力的な家庭とそうでない家庭の差が大きく、学校への関心をどの方にも持ってもらえる方法を考えたい。
- ◆学年部会・教育を語る会への出席者が少ない。
- ◆部会などは一部の保護者だけの出席になっている。

[考察と課題への取組]

学習指導においては、理解に時間がかかる子、落ち着きがなく集中力に欠ける子など個人差があり、一斉指導には難しさがある。幸いにも本校は、県・市教委から加配の先生をいただいているので、課題を持った児童に対してきめ細やかな指導ができています。しかし、加配の先生がすべての時間には行けないので、きめ細やかな指導を充実させるためには、行政や地域の協力を得て、更なる加配の拡充や教育ボランティアの拡大を図っていきたい。

今年度、本校は2年間の市の研究指定を受けた。研究主題を『しなやかな心で、主体的に学ぶ「みなみっ子」の育成 ～「アクティブ・ラーニング」を導入した授業改善を通して～』と

設定し、研究に取り組んでいる。児童生徒の資質・能力を育成するための手立てとしてアクティブ・ラーニングに取り組み、児童の学びを『深い学び・対話的な学び・主体的な学び』にできるように努力している。拡大校内研などを開催することで、外部の方々からいろんなことを学び、研究を深めていきたい。

また、今後の学習指導要領の改定に伴い、外国語の時間が増えたり、道徳の教科化が導入されたりしてくるので、行事の精選や教育課程の見直しを図っていかなければならない。授業時数の確保はもちろんだが、目指す児童像の実現のために、各教科や行事を有機的に関連付けた教育課程を作っていきたい。

家庭の状況は様々で、仕事が忙しく中々参観に来られない保護者もいる。だからこそ、学校から出される便りや連絡がとても大事になってくる。児童の健全育成のためには家庭の協力が不可欠なので、なるべく多くの保護者が参観できるように学校開放日などの行事を工夫するなど、連携や協力の面で改善をしていきたい。